2021 まちづくりフォーラム

1軒のお店が地域を変える

奈良「くるみの木」の物語

愛情をもって店を育てる

暮らしを いつくしむ

ＪＲ奈良線の線路沿い。中心からはずれた場所に、カフェ＆雑貨店「くるみの木」が誕生したのは、今から38年前のこと。

木造の小屋を改装し庭にミモザや林檎、そしてくるみの木を植えた。当初は「主婦の遊び」と言われたが、やがて店は全国から人がやってくるようになった。

新しい動きすると、まちに**が出てくるのです**

石村氏の暮らしへの愛情がこもった空間とプロデュースの手法は、地域おこしのお手本とされている。その石村氏から、地域の活性に必要な視点、アプローチを聞いていく。

入場無料

2021年11月15日月
18:30-20:30/OPEN18:00

会場
苫小牧市民会館
小ホール３階
北海道苫小牧市旭町３丁目２番２号

参加申込は不要です

お問い合わせ
苫小牧市 総合政策部
まちづくり推進課
TEL 0144-32-6062
苫小牧市旭町４丁目５番６号

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体調が優れない場合は、ご来場をお控え願います。ご来場の際は、マスクの着用、手指消毒及び検温にご協力願います。また、緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置の適用等により中止となる可能性があります。最新の情報は苫小牧市ＨＰでご確認ください。

講師

石村由起子
ishimura yukiko

奈良「くるみの木」オーナー

香川県高松市生まれ。大手百貨店、ディベロッパーでの企画、店舗開発の仕事を経て、1983年に奈良市法蓮町にカフェ＆雑貨店「くるみの木」をオープン。以降、奈良市中山町に「秋篠の森」を、東京に「ときのもりLIVRER」をオープン。奈良市のカフェ併設の観光案内施設「鹿の舟」や、故郷の高松市にある「まちのシューレ963」をはじめ、全国の地域活性拠点のプロデュースも手がける。21年7月、三重県の次世代型リゾート「VISON」にミュージアムショップ「暮しの参考室」をオープン。

ファシリテーター

清野由美
kiyono yumi

ジャーナリスト
苫小牧都市再生戦略コーディネーター

慶應義塾大学大学院修了。1980年代から内外の都市開発、コミュニティ構築を取材。著書に『変われ！東京 自由で、ゆるくて、閉じない都市』（隈研吾と共著、集英社新書）、『住む場所を選べば、生き方が変わる』（講談社）など。